



議第 6 号議案

「戦のない世界を 核兵器のない地球を」

日本政府に核兵器禁止条約の参加・批准を求める意見書

埼玉県内には現在、千人を超える被爆者が暮らす。かろうじて生き延びた被爆者は 80 年間、核兵器の恐ろしさと核兵器廃絶を訴え続けている。

加須市議会は、被爆者の「私たちの話を聴いて欲しい」という思いにこたえ、「被爆者の声を聴く証言会」を開いた。被爆者はこう語った。

当時 5 歳、広島の爆心地から約 1 km の自宅で被爆した。爆風で家は押しつぶされ、生後 2 ヶ月の弟と 3 歳の妹は埋まった。弟妹をかばった母もその後亡くなった。私は瓦礫から救い出され一命をとりとめた。町は一瞬にして灰色の野原となった。人は熱線で細胞が溶け、指先から皮膚の皮が垂れ下がり、猛烈な熱風で眼球は飛び出し、腹は裂け内臓が垂れた。黒く焼け焦げた無数の死体、川は肉色の人型で埋め尽くされた。憎い放射線は生き残った命の恐怖の暗い影となった。戦のない世界を、核兵器のない地球を強く願う。

被爆者の証言は、私たちに核兵器の悲惨な実相を伝え、二度と使用してはいけないという思いを強くさせた。

いま、世界の国々では、核兵器禁止条約の署名・批准が広がっている。日本原水爆被害者団体協議会の証言活動と功績が高く評価され、ノーベル平和賞を受賞した。国内外で核兵器廃絶を求める声はますます大きくなっている。

加須市は「加須市平和都市宣言」で、「私たちは世界唯一の核被爆国として全世界の人々に核兵器等の廃絶を強く求め、戦争や紛争などが繰り返されることのないよう、平和の尊さを訴え続けます」と宣言した。

よって、加須市議会は核兵器の廃絶に向け、唯一の被爆国日本政府に対し、速やかに核兵器禁止条約に参加、批准することを強く求めるものである。

以上、地方自治法第 99 条の規定により、意見書を提出する。

年 月 日

埼玉県加須市議会

【提出先】

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣

総務大臣
外務大臣
防衛大臣

令和 7 年 1 2 月 1 0 日提出

提出者	加須市議会議員	佐	伯	由	恵
賛成者	加須市議会議員	及	川	和	子
	同	松	本	幸	子
	同	野	中	芳	子